

2011年6月15日

トライオプティマ(TriOptima)社が2011年上半期に想定元本70兆円(8,570億ドル)の円金利スワップを削減、日系金融機関の参加が記録的な水準に

トライオプティマは、2011年上半期にトライリデュースコンプレッションサービスにより、15の日系および外資系金融機関が、想定元本70兆円(8,570億ドル)の金利スワップを削減した、と発表しました。

「今年は円金利スワップにおける同サービスへの日系金融機関の参加がますます積極的になってきており、いまや参加者の過半を占めています。これは日本の金融市場において、与信リスク管理や業務リスク管理への取り組みが重要視されている結果といえるでしょう。スワップの解約により、各金融機関は規制資本の有効活用を図ることができるのです。」と、トライオプティマアジアパシフィック地域 CEO の今西寛は述べています。

トライオプティマは、革新的なサービストライリデュース導入以来、これまでに想定元本135兆ドル相当の金利スワップ、および同73兆ドル相当のクレジットデフォルトスワップを削除してきました。詳細な統計は、同社ウェブサイトに掲載されています。<http://www.trioptima.com/resource-center/statistics/triReduce.html>

トライオプティマのコンプレッションについて

残高圧縮、または多社間解約とも言われるコンプレッションは、トライオプティマのトライリデュースサービスを通じて提供されます。参加者は、一対一の解約には不可欠かつ面倒な個別交渉をすることなく、自社の時価評価(中値)でデリバティブポートフォリオを解約することができます。トライリデュースの効果は、参加金融機関の増加に伴います。デリバティブ取引を積極的に解約することにより、参加金融機関はコスト削減、与信リスク・業務リスクの軽減、規制資本の有効活用といった様々なメリットを享受しています。

トライオプティマについて

ICAPグループの一員であるトライオプティマは、トライリデュース、トライリゾルブ(triResolve)、金利デリバティブ取引情報蓄積機関(レポジトリ)など、デリバティブ取引のインフラに関わるサービスを提供し数々の授賞に輝いています。

デリバティブディーラー向けに開発されたポートフォリオコンプレッションサービス“トライリデュース”は、取引に関わる諸々のリスクを削減し、運用コストや資本コストを軽減する先駆的技術です。すでに世界各国の主要ディーラーを含む150強の金融機関に利用されているトライリデュースは、ポストトレードの効率的な管理に極めて重要、かつ不可欠なツールとなっています。トライリデュースは、世界各国のシングルネームおよびインデックスのクレジットデフォルトスワップ、23通貨におよぶ金利スワップ、各種エネルギー・スワップを対象に、残高を削減するサービスを提供しています。

トライリゾルブは、取引相手の与信リスクを効率的に管理するネットワークコミュニティサービスです。ここでは、デリバティブ取引の積極的なポートフォリオ照合や担保管理、紛争解決などの業務をサポートしています。世界各国のディーラー、銀行、バイサイド金融機関に利用されているトライリゾルブは、すでに世界のデリバティブ市場における未清算取引の75%超にあたる600万件の取引を処理し、各社の取引管理、決済、法務、担保管理、カウンターパーティー与信管理に貢献しています。

TriOptima はストックホルム(本社)のほか、ロンドン、ニューヨーク、シンガポール、東京に拠点を構えています。

[http:// www.trioptima.com](http://www.trioptima.com)

本件に関するお問い合わせ先:

日本におけるトライオプティマ広報代理店 MSL Japan 釜井康雄
電話 03-5719-8901 090-6033-1953 e-mail: yasuo.kamai@msljapan.com

トライオプティマ アジアパシフィック地域 CEO 今西寛
電話 +65 6372 8188 e-mail: yutaka.imanishi@trioptima.com

ニューヨーク

インダストリーリレーションズ部門グローバルヘッド

スーザン・ヒンコ (Susan Hinko)

電話: +1 646 744 0410

e-mail: : susan.hinko@trioptima.com

ロンドン

アージェンタスピーアール (Argentus PR)

キャンディス・アダム (Candice Adam)

電話: +44 7771 906073